

製品名: 3pK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06320**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPKAPK3
別名	MAPKAPK3; MAP kinase-activated protein kinase 3; MAPK-activated protein kinase 3; MAPKAP kinase 3; MAPKAP-K3; MAPKAPK-3; MK-3; Chromosome 3p kinase; 3pK
遺伝子 ID	7867.0
SwissProt ID	Q16644
免疫原	抗血清はヒト MAPK3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 301-350

背景

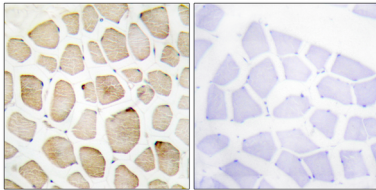
この遺伝子は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーのメンバーをコードします。このキナーゼは、マイトジェン活性化プロテイン

キナーゼ (MAP キナーゼ) 活性化プロテインキナーゼとして機能します。MAP キナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、複数の生化学的シグナルの統合点として機能します。このキナーゼは、細胞の成長誘導因子およびストレス刺激によって活性化されることが示されています。in vitro 試験では、ERK、p38 MAP キナーゼ、および Jun N 末端キナーゼのいずれもこのキナーゼをリン酸化および活性化できることが実証されており、このキナーゼがマイトジェン応答とストレス応答の両方におけるシグナル伝達の統合要素としての役割を示唆しています。このキナーゼは、組織特異的な遺伝子発現および触媒活性の調節に関与することが知られている塩基性ヘリックス-ループ-ヘリックス転写因子である E47 と相互作用し、リン酸化してその活性を抑制することが報告されています。機能: ERK、p38、JNK のいずれかによって活性化されるポリコム媒介抑制の調節因子。CSBP の基質。in vitro では、HSPB1、BMI1/PCGF4、および TCF3 をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 主に核内に存在し、活性化されると細胞質へ移行する。サブユニット: TCF3 および PCH2、BMI1/PCGF4 などのポリコムタンパク質と相互作用する。組織特異性: 広く発現しており、心臓と骨格筋で高い発現レベルが観察される。脳では発現しない。

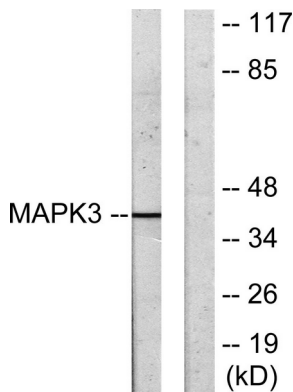
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;VEGF;

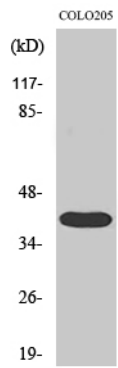
画像データ



MAPK3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MAPK3 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



3pK ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析